

3. ボランティアリーダー育成事業

ボランティア・NPO 活動センターでは、本学学生・教職員を対象にボランティアに関する各種講座を実施しています。入門編として、ボランティアについての基礎的な講義である「ボランティア入門講座」とボランティア体験として「Ryu ボラ!」を実施しました。また応用編として、センターを運営する学生スタッフや既にボランティア活動を行なっている学生を対象に、スキルアップや組織運営の向上を目指した「ボランティアリーダー養成講座」や「ボランティアコーディネーション力3級検定」（共催：日本ボランティアコーディネーター協会）を実施しました。

2023年度は、原則対面で実施し、状況によってオンラインも活用する事で広く参加を呼びかけました。

事業名	ボランティア入門講座～ボランティアする前に知っておこう！～
実施日時・場所	深草キャンパス：2023年5月16日（火）17時30分～19時00分@22号館203教室 瀬田キャンパス：2023年5月17日（水）17時30分～19時00分@3号館101教室
参加人数	深草：66名／瀬田：44名

1. 経緯・目的

学生が「何か新しいことを始めたい」と感じる年度初めに毎年本講座を実施しています。2022年度からは、より多くの学生・教職員に受講の機会を開くために本講座だけで終了することも可能とする一方で、本講座を受講した人はその後のボランティア体験を申し込めるようにもしています。

また、2020-2022年度はオンラインや動画などさまざまな方法を試行錯誤してきましたが、活動の制限がなくなったことから、2023年度は本講座を対面実施の形に戻しました。

2. 概要

以下の流れで実施しました。対面実施ということで、話を聴くだけでなく時折ワークショップを交えた参加型形式としました。

- ①ボランティアについてのワークショップ
- ②ボランティアって何だろう？
- ③ボランティアの魅力や活動の種類
- ④『ボランティア体験 Ryu ボラ!』の説明やボランティア・NPO 活動センターのその他事業紹介



3. 参加者の声・得られた効果など

- ・ボランティアのイメージが大幅に変わる講座だった。なぜアルバイトではなくボランティアをするのだろうと考えた時、やはりアルバイトでは感じられないやりがいや学びがたくさんあることに気づいた。
- ・ある社会問題に対し、熱い想いを持っていなければボランティアに参加できないのではないかとという不安があったが、案外軽い気持ちで参加して良いのだと知り、少しボランティアを身近に感じた。
- ・ボランティアを通じて色んな人とコミュニケーションを取って、たくさんの考え方を知れることでこれからの自分の道を見つけるためになるんだなと思いました。
- ・「誰かの為に」というよりは「誰かと一緒に時間を共有する」活動なのかなと思いました。



4. コーディネーター所感

2022年度初めて講座とボランティア体験を切り離して実施した形式を、2023年度も引き続いて同様の形で募集したところ、講座自体は多くの申込があり関心の高さが伺えました。

しかしながら、前年度は講座が動画視聴だったことに対して今回は対面実施だったことや、新たに体験を後期にも実施することにしたため、講座自体は問題なくともその後のボランティア体験の募集に課題が残る形となりました。

今後も講座とボランティア体験を切り離す形ですめるのであれば、講座は講座で完結し、講座を受講していない体験希望者のためには、入門講座の中でも恒久的な内容を動画化して視聴できるようにするなどの検討をしていきたいと思います。また、学生に限らず教職員も気軽に申し込めるような広報も考えていく必要性を感じています。

〈報告者：ヒギンズ 尚美

（瀬田キャンパス コーディネーター）〉

事業名	ボランティア体験 Ryu ボラ！
日時	2023年6月4日（日）～11月25日（土）の期間内計8回実施
参加人数	73名
協力団体	7団体 ※次頁より各活動先の報告を掲載

経緯・目的

ボランティア入門講座を経て、実際にボランティア活動をしたい！と思った学生に向けて、ボランティア体験企画を実施しました。

今回は7つの団体にご協力いただき、計8回実施しました。このプログラムは体験だけでなく、事前ガイダンスと活動後の振り返りをセットで行な

い、事前ガイダンスでは受け入れ団体の方にご協力いただき、ハイブリット形式で団体の想いや理念、当日の活動内容について伺いました。振り返りでは活動終了後にその日の感想や気持ちを参加者間で共有しあう事で、活動をその日だけのものに留めないような工夫をしました。

各体験内容については次ページ以降をご確認ください。

ボランティアプログラム先	障害者福祉サービス事業所 瑞穂（みずほまつりの運営サポート）
事前ガイダンス	2023年5月22日（月）17時30分～18時30分 @瀬田キャンパスおよびオンラインにて実施
ボランティア体験	2023年6月4日（日）8時45分～16時30分／参加者11名 @障害者福祉サービス事業所 瑞穂（滋賀県大津市）

1. 概要

【事前ガイダンス】

本学卒業生で事業所職員の貴島氏にお越しいただ

き、法人の思いや普段取り組んでいること、『みずほまつり』は地域への感謝を込めて開催されるイベントであることなどについて、お話しいただきました。

【ボランティア体験】

体験学生9名とボランティアリーダーの学生スタッフ2名が、瑞穂職員の方から説明を受けた後、学生たちは、模擬店とこども向けの遊びコーナーに持ち場を分け、さらに前半と後半で持ち場を交代しました。各持ち場では地域住民のボランティアの方や他大学の学生、中高生などと協力しながら活動し、イベントは大盛況のうちに終了。たくさんの方が来場され、地域に愛されている施設・まつりであることが伺えました。後片付けをしてから本日の活動について学生一人一人の感想を共有した後、瑞穂職員の方からもねぎらいの言葉をいただきました。

2. 参加者の声・得られた効果など

- ・何よりお客さんが嬉しそうにする姿が見ていて幸せでした。施設の方々も気さくに話して頂き、緊張することなく楽しく学ぶことができ、とても有意義な活動になりました。

張することなく楽しく学ぶことができ、とても有意義な活動になりました。

- ・こういう活動を通じて地域の多様な人々が出会い、交流することはすごく素敵でした。どの時代であれお互いを理解するためには会うことが大事だと思います。



ボランティアプログラム先	下京青少年活動センター（地域の清掃活動）
事前ガイダンス	2023年5月29日（月）17時30分～18時30分 @深草キャンパスおよびオンラインにて実施
ボランティア体験	2022年6月24日（土）10時00分～13時30分／参加者19名 @下京青少年活動センター付近（京都市下京区）

1. 概要

【事前ガイダンス】

下京青少年活動センター（通称しもせい）のユースワーカーに来ていただき、しもせいで取り組んでいるボランティアや施設の役割等についてお話を聴きました。

【ボランティア体験】

5つのグループに分かれ、「京都らしい風景の写真を撮る」などのミッションをクリアしながら清掃活動を行ないました。下京青少年活動センターは観光地に徒歩で行ける場所に立地しているためか、観光途中にゴミを捨てる場所がなくて道に放置されたゴミも多く見受けられました。

活動後のふりかえりで「ゴミ箱の設置」についての意見もたくさん出ていました。ゴミ箱設置については『管理の問題』、『セキュリティの問題』、様々な問題が関わってくることも、今回の活動から考えるきっかけになったようでした。最後に下京青少年活動センターの中を見学して終了しました。



2. 参加者の声・得られた効果など

- ・活動途中で地域の方から「ありがとう」とお声がけをいただき、とても嬉しかった。
- ・場所を借りてするボランティアとは違う気づきや、ほとんど知らない人とどうやって楽しく活動するかというのも考えさせられたので、軽いものでもまずはやってみることがすごく大事だなと思いました。

ボランティアプログラム先	森の風音（公園の森林整備）
事前ガイダンス	2023年6月7日（木）17時30分～18時30分 @瀬田キャンパスおよびオンラインにて実施
ボランティア体験	2023年7月2日（日）8時30分～12時00分／参加者12名 @滋賀県立びわこ文化公園 西ゾーン（滋賀県大津市）

1. 概要

【事前ガイダンス】

代表の本学社会学部教授 金子龍太郎先生から、びわこ文化公園の森林整備活動について、学生に向けてお話いただきました。拡大写真のアルバムを用意くださったり、整備された活動場所で遊ぶ『森のようちえん』の子どもたちの動画も見せてくださいました。

【ボランティア体験】

10名の体験学生とボランティアリーダーの学生スタッフ2名が参加しました。木の杭を打って階段をつくる、チェーンソーでの木の伐採作業のサポート、草刈り、植樹したところに落ち葉を敷く作業など、グループに分かれて森の風音のメンバーの方と一緒に作業しました。作業しながら、楽しいお話をしてくださったりして、暑い中でも笑いながら作業ができました。作業終了後に森の中を少し歩き、自分たちが作業したからこそこの森が維持されていることのすごさを感じていたようです。

2. 参加者の声・得られた効果など

- ・階段を作る作業に参加して、一段作るのにこんなに大変なんだと感じました。また、森の風音の方にこの公園にいる昆虫を見せてもらえて、興味深い体験ができてよかったです。ありがとうございました。
- ・足元や手の怪我に気をつけながら作業するのが大変だったけれど、作業を終えると公園が整った感じがした。整備は大変な事も結構あって、普段のボランティアさん達のありがたさがよく分かりました。



ボランティアプログラム先	京都障害者スポーツ振興会（『障害者スポーツのつどい』運営サポート）
事前ガイダンス	2023年6月14日（水）17時30分～18時30分 @深草キャンパスおよびオンラインにて実施
ボランティア体験	2023年7月9日（日）11時45分～17時00分／参加者9名 @島津アリーナ京都（京都市北区）

1. 概要

【事前ガイダンス】

京都障害者スポーツ振興会の辻井氏をお招きしてお話を聴きました。ボランティアも含めてみんなで楽しむ！そんな活動なので、パラスポーツの世界の扉を皆さんも開いてみませんか？という呼びかけがありました。

【ボランティア体験】

体験学生8名、ボランティアリーダー1名の計9名で参加しました。一般の方や他大学の学生など多くのスタッフと交流し、来場者を迎える準備をしました。つどい開始後は来場者とスタッフが一丸となってスポーツを楽しむ姿が垣間見え、分け隔てなく全員で楽しむ、笑顔溢れる活動となりました。

2. 参加者の声・得られた効果など

- ・遊びに来てくれる方みんなが本当に楽しそうな顔をしていて、私まで元気を貰えた。障がい者も健常者も壁無く関われる、今回の様な事が日常生活でもできたら良いと思った。
- ・普段あまり聞くことのない車椅子を使った競技や軽スポーツなどを体験できる機会になって、とても楽しかったのと、イベントのお手伝いできたことにやりがいを感じることができました。



ボランティアプログラム先	多文化共生支援センターSHIPS（多文化子ども食堂）
事前ガイダンス	2023年10月31日（火）17時30分～18時30分 @瀬田キャンパスおよびオンラインにて実施
ボランティア体験	2023年11月11日（土）10時30分～15時00分／参加者 4 名 2023年11月25日（土）10時30分～15時00分／参加者 4 名 @多文化共生支援センターSHIPS（滋賀県草津市）

1. 概要

【事前ガイダンス】

運営主体の「多文化共生支援センターSHIPS」所長の喜久川氏と協力団体「一般社団法人 no-de」歌藤氏から、具体的な活動内容や取り組んだ経緯・背景などを聴きました。既にボランティアとして活動している龍大生も交え、普段の活動の様子を紹介してもらいました。

【ボランティア体験】

活動前に、来店する子どもたちの置かれている現状などのお話を聴きました。11月からは学習支援も始めたとのことで、体験学生の1名は既に活動しているボランティア学生と共に、南米系の子どもの学習支援活動からスタートしました。食堂のホールを担当する体験学生たちは、お茶を提供したり食器を片付けながら一般ボランティアの方や来店客と話したり、子どもたちと UNO で遊んだりもしました。年代や国籍、障がいの有無など問わず様々な人たちがゆるやかに過ごす場での活動でした。

2. 加者の声・得られた効果など

- ・「ボランティア=いいことをする!」というイメージだったが、ここで活動する人はすごく自然体でいいと思った。
- ・この活動に来たからこそその人とのつながりや、普段できない経験ができて新たな刺激となる体験でした。大学生活だけでは関わることのない人と出会うことができ、嬉しかったです。



ボランティアプログラム先	宝ヶ池プレイパーク
事前ガイダンス	2023年10月24日（火）17時30分～18時30分 @オンライン（Zoom）
ボランティア体験	2023年11月12日（日）9時30分～16時30分／参加者8名 @宝ヶ池子どもの楽園（京都府京都市）

1. 概要

【事前ガイダンス】

宝ヶ池プレイパークの野田氏とオンラインでつなぎ、活動理念や目的、宝ヶ池プレイパークの特徴や環境問題がパークに及ぼす影響等についてお話を伺いました。

【ボランティア体験】

午前中はたくさん子どもたちが来園し、ボランティア学生もそれぞれ積極的に活動しました。お昼前に少し雨が降った影響で昼以降の来園者は減りましたが、その分一人ひとりと向き合って活動する事ができました。最後に振り返りを本学学生以外のボランティア参加者と一緒におこないました。

2. 参加者の声・得られた効果など

- ・普段は同世代の人たちと会話することや遊ぶことが多い私にとって、子どもたちから紙飛行機の折

り方を教えてもらうなど、とても充実した楽しい時間を過ごすことができました。

- ・今まで年下の子や小さい子どもと関わる機会があまりなく、最初は不安だったが、子どもたちから積極的に来てくれてこちらの緊張も解けた。自然の中で思い切り遊べて、童心にかえることができた。



ボランティアプログラム先	京都風緑（レモン畑の整備・収穫作業）
事前ガイダンス	2023年10月26日（木）17時30分～18時30分 @深草キャンパスおよびオンラインにて実施
ボランティア体験	2023年11月19日（日）9時00分～16時00分／参加者6名 @市民農園 KAZAMIDORI（京都市伏見区深草）周辺の農園

1. 概要

【事前ガイダンス】

1回生の時にこの体験に参加して以降、精力的に活動に参加している本学4回生の大原氏から、体験に基づいた話を聴きました。「より活動に興味があった」との声が上がっていました。

【ボランティア体験】

体験学生5名とボランティアリーダーの学生スタッフ1名が、自然農法でレモンを育てている畑のお手伝いをしました。午前中は、レモンの木に『あんどん掛け』という木の周りに杭を打って、周りを囲んで風よけを作る作業を行ないました。午後は別

の畑に移動し、レモンの収穫作業を行ないました。両方ともに足場の悪い中の活動でしたので、しんどい作業ではありましたが、スタッフの方のいろいろと教わりながら学生達は作業を楽しんでいました。最後に収穫したレモンを分けていただき、活動を終了しました。

2. 参加者の声・得られた効果など

- ・普段何気なく食べている食べ物、こういう風に育てられていることに改めて気づいたり、無農薬栽培がどんなに大変か分かった。
- ・しんどかったけど、久しぶりに体を使い、五感が刺激された。また続けて参加したい。



〈報告者：ヒギンズ 尚美
(瀬田キャンパス コーディネーター)〉

事業名	「参加したくなるミーティングづくり講座」 ～ミーティングって、実は楽しい(＝活き活きできる)！？～
実施日・場所	2023年8月7日(月) 13時30分～16時00分 場所 深草キャンパス22号館302教室
協力団体等	公益財団法人京都市ユースサービス協会 事業統括 竹久輝顕氏
参加人数	52名

1. 経緯・目的

グループで活動する際に必須なのが、ミーティング。その運営では、誰もが壁にぶつかってしまうことがあります。本格的に活動を広げていく夏の時期に、ミーティングについて捉えなおしてみることは必要ではないかと、『参加したくなるミーティング』をテーマに、「参加する」「参加したい」ミーティングにするために必要な視点について考える講座を実施しました。内容として、ミーティングへの『参加の仕方』や『ミーティング時の視点』、そして『そもそもミーティングとは何だろう?』を考えると共に、「意見が出ない」「情報伝達だけになってしまう」「嫌々参加してくる」「出席率が悪い」といったミーティングで直面する問題についても考えました。



2. 概要

以下のプログラム構成で行ないました。

- ・ワークショップ形式＋ミニレクチャー
- ①京都市ユースサービス協会の紹介と講師自己紹介
- ②ミーティングあるあるについて
- ③参加者同士の自己紹介タイム (A4用紙一枚に4つの項目を書く作業・4つの窓)
- ④ワーク「どんなミーティングがしたい?」3つの質問項目についてグループ内で意見共有
- ⑤ミーティングについて講義(構成メンバーと役割、事前・最中・事後、ミーティングの種類とやり方、

拡散と収束)

3. 参加者の声・得られた効果など

- ・参加する側だったらリアクションが大切、企画する側だったら事前準備をしっかりとすることが大切だと学んだ。
- ・ミーティングは準備でほとんど決まるとおっしゃっており、準備をしっかりと行なおうと思いました。また、ミーティングの終わり方が印象に残っており、これまではすんなりと終わっていたので、振り返りや確認などをしっかりと行ないたいです。
- ・ミーティングで困っていることにちょうど焦点があたっていたので、他の人の意見も聞けて良かったです。雰囲気作りだけでなく、前に立つ側の準備もしっかり行なって参加しやすいミーティングを作っていきたいと思いました。
- ・「ミーティングの雰囲気を作るのはみんな」という言葉は、司会と聞く側になった両方の自分にとってどちらも一人の力ではできないということを知れた。

4. コーディネーター所感

2020年度からコロナ禍で課外活動が自粛された影響なのか、先輩から後輩への引き継ぎが上手くできておらず、なぜこの作業が必要なのか？といったことが分からないままに活動していたり、チーム運営が上手くいかなかったりして悩んでいる学生を多く見かけるようになりました。そこで、学生自身がミーティング運営で悩んでいる視点を少し広げたり、事前準備をすることによって、現在ぶつかっている壁を乗り越えるヒントを見つけ、今後に活かしてもらいたいという想いでこの講座を企画しました。

参加者の感想などを読んでみると、少しそのヒントをつかめたのではないかと思います。

〈報告者：竹田 純子

（深草キャンパス コーディネーター）〉

事業名	インクルーシブデザインって何だろう？～障がいがあってもなくても！～
実施日	2023年12月5日（火）18時00分～19時45分
実施方法	オンライン（Zoom）
協力団体等	一般社団法人 生き方のデザイン研究所
参加人数	学生17名／協力団体8名

1. 経緯・目的

近年、ボランティア・NPO 活動センターで実施する講座は、ミーティングの進め方や組織運営等をテーマとしたものを多く実施してきました。一方で、ボランティア活動の背景にある社会課題についても学生に考えるきっかけを提供することが必要だと感じていました。そこで、今回は障がい者と共に活動されている北九州の団体とオンラインでつなぎ、話を聴いたりワークショップを通じて障がい者への偏見や社会参加について考える機会になるよう企画しました。

更に、実施時期を障がい者週間や人権週間に合わせ、私たち一人一人が様々な人権問題を「誰かの問題」ではなく「自分の問題」として捉え、互いの人権を尊重し合うことの大切さについて認識を深めることも目指しました。

2. 概要

以下のプログラム構成で行ないました。

- ①生き方のデザイン研究所（通称：生きデ所）の取り組み紹介
代表理事・コーディネーター 遠山昌子氏
- ②生きデ所デザインパートナー（障がいのある皆さん）の紹介
- ③デザインパートナーも含めた3-4名のブレイクアウトルームに分かれ、障がい者に関するシチュエーションの問いに対して、自分ならどうするか？の意見交換ワークショップ
- ④デザインパートナーのみなさんからの感想
- ⑤まとめと質疑応答



3. 参加者の声・得られた効果など

- ・視覚障がいの方とグループが同じになった際に、スライドに書かれていた文章を復唱したり、相槌を声に出したりとコミュニケーションを取る上で意識しないといけない事が再確認できた。
- ・耳が聞こえない方とのワークの時に、最初はなぜ戸惑っているのかすらわからなくて難しかったですが、なんとか筆談という方法に気付くことができましたので良い経験になりました。
- ・人は1人では生きられないということを感じました。また、一人一人は同じに見えても異なる部分はあるものなんだということにも、あらためて気づくことができました。

- ・平等は、今の環境の形のままじゃなくて少し形を変えたり、ちょっと相手を想像したりすることで作ることができるのではないかなと思うことができました。
- ・障がいの有無に関わらず、できることやできないことは人それぞれであり、違いを認め合い、互いにフォローしあえる優しい社会になるために、一人一人が意識を変えることが大切であると感じました。

4. コーディネーター所感

遠山氏の「モヤモヤ感を持つことが大事」という言葉が印象的でした。オンラインだからこそ、このような遠方の団体とつないで障がいのある方と交流する機会を学生に提供できたと思います。参加者は想定したよりも少なかったものの、アンケートでは学生たちの満足度は高く、新たな問いを持ち帰ってくれたと感じています。今回の参加者の更なる学びや具体的な活動につなげるための働きかけを考え、これからもボランティア活動につながるさまざまな機会を学生に提供してまいります。

〈報告者：ヒギンズ 尚美

(瀬田キャンパス コーディネーター)〉

事業名	ボランティアコーディネーション力3級検定
実施日時	2023年11月18日(土) 10時00分～18時00分
場所	深草キャンパス 21号館501教室
実施主体	ボランティア・NPO 活動センター／ 特定非営利活動法人 日本ボランティアコーディネーター協会 (JVCA)
参加人数	学生29名、学外者2名 合計31名

1. 経緯・目的

「ボランティアコーディネーション力」は、既にボランティア活動をしている人や、将来ボランティアと関わる進路を目指す人、そして学内でボランティア紹介等をおこなう本センターの学生スタッフなどに求められる力であり、ボランティア関係者だけでなく、自治体職員や企業の社会貢献部門の方、施設職員なども多数受験している資格となっています。

このことから、本学学生・教職員および一般の方がボランティアコーディネーションへの理解を深

め、実践的な取り組みの担い手として活動する力をつけることを目的として、本検定を学内で実施しました。

2. 概要

○受験資格など

要件：ボランティア活動経験があること、もしくはボランティアコーディネーション経験またはその予定があること

受験料：JVCA 主催検定価格12,000円のところ、本学学生は6,520円で設定（大学より補助）

○当日の流れ：

(1) 直前研修（講義）10：00-16：30

序章 今なぜ、ボランティアコーディネーション力なのか？

1章 ボランティアの理解

2章 ボランティアコーディネーションの理解

(2) 検定試験 17：00-18：00

○講師：筒井のり子（JVCA 運営委員、本学社会学部教授）

早瀬 昇（JVCA 運営委員、大阪ボランティア協会理事長）

3. 受験者の声

私はセンターで学生スタッフをしており、日頃からボランティアコーディネーションを行なっています。検定前の講義を受けて、地域の中には多くのボランティアコーディネーターが存在しており、地域活動の根幹を支えていることを初めて知りました。検定を受けたことで、ボランティアを探しに来る人を待つだけでなく、センターの外に出向いての取り組みをするなど、学生がボランティアに触れる機会を増やせるように働きかけていきたいと思いました。

4. コーディネーター所感

学生スタッフはもちろんのこと、熱心にボランティア活動をしている学生も多く受験してくれました。また、学生と一般受験者2名が、長時間におよぶ直前研修で学びました。その表情は、みな真剣でした。今回学んだことは、今後自身がボランティア活動続ける時や、将来の仕事でボランティアと協働していく時に活かしてほしいと思います。また、地域の中で、ボランティアの価値についての共通認識を持ち、ボランティアコーディネーション力が広がっていくことを願います。

〈報告者：國實 紗登美

（瀬田キャンパス コーディネーター）〉



日本ボランティアコーディネーター協会 共催



RYUKOKU UNIVERSITY

館谷大学生は補助あり！

ボランティア コーディネーション力 検定

3級検定を深草キャンパスにて開催

本校教職員・一般のみなさんも受験OK！

ボランティアをより深く理解し、豊かな活動とするために

ボランティア活動の広がりには欠かせない「ボランティアコーディネーション力（以下、市民の「参加力」）を高め、組織の発展や自治的な社会づくりを進める調整役は、ボランティアリーダーやNPO、施設のスタッフ、それに自治体職員など多くの人々に求められる能力です。以下の3つに該当する方は、ぜひ資格取得を目指してください。

これまでにボランティア活動の経験がある。

これまでに地域社会、組織（施設・機関、NPOなど）において、ボランティアコーディネーションに関わった経験がある。

ボランティアコーディネーションに関わる予定がある。

日時：2023年11月18日（土）
10:00～18:00
（直前研修 10:00～16:30 / 検定試験 17:00～18:00）

場 所：館谷大学深草キャンパス
21号館501教室
定 員：30名（先着順）
申込受付期間：2023年8月21日（月）～11月2日（木）

直前研修 講師



筒井のり子
館谷大学社会学部 教授



早瀬 昇
大阪ボランティア協会 理事長

◎受験資格【※年齢は問いません】(1)と(2)の両方に該当している方。（書類も必ず確認してください）

(1) ① ②のいずれかに該当していること。
 ① これまでにボランティア活動の経験がある。
 ② これまでに地域社会、組織（施設・機関、NPOなど）においてボランティアコーディネーションに関わった経験がある。
 ③ ボランティアコーディネーションに関わる予定がある。
 (2) 3級検定を志望していること。
 ・申込用紙、テキストと受験費をお支払いください。
 ・テキストを事前に読み取り勉強してください。（検定試験のみの参加も可能ですができません）
 ・検定形式：択一・記述（40問）、時間制限：公式テキストから90%以上を正解
 ・試験時間：90分、検定料：6,000円、合格基準：70点以上（70点未満は再受験可）

【問い合わせ】館谷大学ボランティア・NPO活動センター ryuvnc@ad.ryukoku.ac.jp